

個人の生活 <その1> 女性の目を通した金田村 (Yさん)

戦後の諸改革

金田地区の戦後の進歩的な諸改革は、村長を始め比較的若い人達によって進められた。そのためか、時には恨まれた事もあったようだ。しかし、新生活運動、生活改善の実施等は、表彰を受けるなど、他の地域から注目された。

「健民館」の建設

小学校の講堂建築との名目で建てられた。当時としては洒落た立派な建物だった。1階建てで、中でバレーボールや、マットを使う運動もでき、柔剣道にも使った。

学校の2階からテレビが移され、夜になると、当時人気のあったプロレスや水泳競技を見るのが楽しみだった。時には映画会も開かれ、小学校の施設としてだけでなく、地域の人達に広く開放されていた。

4Hクラブ、青年団

活発な地域活動を実践していた。

全村バレーボール

診療所の吉田先生は進んで農村の環境調査・研究を行い、金田の人びとが、望ましい体位を作るために、「腰を伸ばすこと。全身を動かすこと」が必要と、「バレーボール」を推奨した。村会もそれを受け、村民を巻き込んだ全村運動へと発展した。

神奈川国体の時、「全村バレーボール」を始め、社会体育の模範村として天皇・皇后のご訪問を受けている。

診療所の先生はこの実績から、博士号を取られたと聞いている。

かまどの改善

戦前のかまどは、燃やしても煙の行き場がなく、家中に充満した。柱も煤けていた。トラホームを患う人が多かったのは煙が原因だったようだ。

新型のかまどは、たき口が二つ、それぞれに釜をのせ、釜の間に煙突があった。かまどは、土間に置かれ煙は煙突を通して外に出す方式で、煙の心配はなくなった。火力には、わらやもみがらを使った。二升炊きや三升炊きの大きな釜を使う家もあった。

<農作業>

家 畜

戦争中だった。寺田縄の人が馬耕を奨励し、金田地区で馬耕の競技会が開かれた。飯島に至る広い畑が会場として実施された。当時、馬を持てる農家は少なく、金田地区でも2軒だったと思う。

男手が少ない戦争中には農耕に朝鮮牛が使われていた。優しい性格で女性や子供でも使うことができた。道端に繋いであるのをよく見かけた。

稲作の苗

農家同士が苗場を交換したり、“なえきだ”という決められた共同の苗場を持ったりしていた。苗場はよい水が得やすいところに作られたが、畑に水稻の苗を育苗する“おかぼせ”もあった。

検査官

米を入れる俵の重量の検査官が来て、規格にあっていれば合格の大きな認定印が押された。米の等級検査も厳しかった。

農業用水

金田地区は農業用水の管理が大変だった。例えば、古川排水の水を再利用するために、駐在所脇にポンプが設けられている。堰き止められた水をポンプアップして、小学校より西に約1 km汲み上げ、入野地域の水田用水として利用している。ポンプ番は四交代制だった。

<日常生活>

「妊婦が牛のロープを跨ぐと赤あざの子供が生まれる」などと言われていた。よく親から「ぶらぶらしては“今日様”に申し訳ない」、「本ばかり読んでいてはだめだ」と注意された。儒教の教が染み付いていたのか、身体を動かしていなければならなかったような気がする。

また、「一生食べる量は決まっている、大食いは早死にする」とも言われた。食べ物の少ない時の戒めだったのかもしれない。真実を言っているようでもある。

味噌・醤油

自家製で、醤油作りの仕込みは各農家がやり、“しぼり”は機械を使うので専門の職人が他の村から巡回でやってきた。作業が始まると村中味噌醤油のにおいがした。

むしろを編み

むしろを編む、俵を作るや縄をなう等は、家の夜なべ仕事。むしろは自分の家で使うだけでなく、大山や子易地域と燃料用の薪等と物々交換をしたこともある。

むしろは農作物を乾燥させるのに使い、急に雨が降ったりすると、急いで取り込まなければならぬので、ついつい、けんか腰になりながら取り込んだ。

水路の利用

古川や地区内の水路の水量は、今よりもっと多く、いつも流れ、障子洗いや洗濯ができた。人身事故があった流れもあった。

紙芝居

巡回してくるのが楽しみだった。紙芝居屋の場所が決まっていた、水あめなどは思い出だ。

<小学校の生活>

小使さん

授業の始めと終りや放課は、小使いさんの鐘の音で告げられた。おばさんは下駄の鼻緒も直してくれる、編み物の上手な方だった。

報国農場

小学校が管理していた農場で、子供たちが耕した。水神橋から下流の長持付近までの、金目川の左岸、堤防内側の高みに耕作地があった。小麦やサツマイモを栽培した。よく鎌を持って出かけた。学校での勉強時間は少なかった。期間は戦時中から戦後1、2年の間だったと思う。

後には報国農場に代わって農家から水田を借りて農作業をした。

学校から農場への道は、草ぼうぼうで、草先を結び合わせ、歩いてゆくと引っ掛かり、足がとられ転びそうになる悪戯をされることもあった。

収穫した小麦をパン屋に渡しパンをもらった記憶がある。

髓虫（ずいむし）取り

稲に髓虫が付くと“しらほ”になり、減収となってしまうので、年中行事のように子供たちの作業として虫取りをやった。取った虫をビンに入れ、卵や蛾にそれぞれ点数がつけられ虫取りを競った。時には点数アップのために取った数を増やして報告したこともある。農薬がなかった時代、子供が役立っていたのだ。

苗場での髓虫取りの時、「ひる」に食われたりした。ナメクジのように塩で駆除する。塩をおやつ代わりにして舐め、おなかをこわした人もでた。

「いなご」取り

竹筒の口到手ぬぐいで出来た大きな袋に入れた。ものすごく沢山取れて、大釜でゆで、乾燥させて、学校に提出した。兵隊の食糧になったと聞いた。

麦踏み

冬の寒い時、地域ごとに6年生までの班が出来ていて、麦畑に入った。踏むとってても子供の足なので、畝に対して真っ直ぐではうまく踏めないで、斜めか、横に踏み付けた。履物は、ゴム靴、ズックだった。大山下ろしの冷たい風が吹き、作業の初めは寒かったが、後は暖かくなり、防空頭巾などを頭から外し踏み続けた。

落穂拾い

稲刈りの後、子供たちが拾い集めた。

下 駄

霜柱が立った道は、低学年の頃、高く薄い歯の付いた下駄を履いて登校した。

小学校の再建

地元の大工さんたちが協力し建設にあたった。材木は原木を調達し校庭で製材した。校舎の設計は当時の村長さんの手になった。建築途上にけが人の出ることもあった。

村の多くの人たちが建設に携わった。資金は地元有志が出資し、後に返金されたようだ。

<村内の商店>

酒 屋

新霞橋の袂に酒屋「かんべさん」があり、裏に飲む所があって、店でお酒を買って飲む人もいたようだ。集まりの後には、よくこの店に来て飲んでいた様だ。豪快な人は、飲みすぎてひっくり返っていたりした。

料理屋

飯島では「木間さん」で食事をすることができた。

油、砂糖の販売

寺田縄では「吉川さん」、入野は「城田さん」の店で買うことができた。

飴玉、駄菓子屋

入野には「田中さん」「東屋さん」「もくさん」という店があった。

肉 屋

お店がなく、追分や平塚の町まで買いに行った。肉の入ったカレーライスは町で食べた。

<村への行商人>

下駄屋

「こおり」に入れて秦野からきた。大縄橋付近にも店があった。磨り減った足駄の歯の交換もした。

コウモリ傘直し・桶屋・鋳掛屋

金田にはお店がなく、他の地区から商売にやってきた。

とうふ屋

豊田の店から売りに来た。店には東橋を渡り買いに行った。

らお屋

キセルの修理や筒の「やに」とりを商売に、専用の車を引いてきた。

魚 屋

大磯から早朝売りにきた。お刺身は、朝食べるものと思っていた。

薬 屋

富山の薬屋が置き薬の精算や入れ替えにきた。子供に紙風船や細長いゴム風船が渡された。おもちゃをもらうことが楽しみだった。

アイスクャンデー屋

鐘を鳴らしながら、自転車で売りにきた。遠くで買うと、家に着く前にとけてしまったという、苦い経験もある。

呉服屋

「むさしやさん」が反物を持って家庭に来た。娘さんのいる家には縁談の紹介もした。代金は、農家の収入時期が決まっていたので、後払いもできた。終戦後は「えびすやさん」も来た。

便利屋

行商ではないが、いろいろな用件を聞いてくれた。

< 以 上 >